

外国人患者さんとよい医師患者関係を築くコツ



相手が外国人であっても同じ
「よい聞き手であれ」

私は最初、アrikunの表情から自分が信用されていないように感じていました。しかし、彼の笑顔がすべてを氷解しました。彼はあの大きな目で、診療する私を観察し、信頼できる医師だと考えたのでしよう。そして誠実に対応すれば理解してくれることがわかると、私のほうにも相手を信頼する気持ちが増えってきました。彼は今もときどき受診してきますが、それ以来お互いの気持ちを通じやすくなっています。このようにお互いを認め合うようになれば、よい医師患者関係が築かれたと考えてよいと思います。

よい医師患者関係が築かれると、どのよ

● ● ● 解説 ● ● ●

彼の笑顔を見て私は、いつのまにかよい医師患者関係が築かれていたことを知りました。いつもじろっと見られているように感じていましたが、にこっと笑うとなかなか表情豊かな人だと思いました。

ところで、よい医師患者関係とはどのようなことをいうのでしょうか。

私はそれは、医師と患者の両方が「お互いを認め、信頼し、尊重しあう関係」だと思います。この中で「お互いを」という部分が大切です。

「横になっておなかを見せてください」

と私が言つと、アrikunとアラブ人の患者さんは顔を見合わせて、やっぱりお腹を診るでしょう。とじつような表情でうなずきあいました。

そしてアrikunは私に顔を向けて、笑顔でこう言いました。

「先生は、外国人でもよく話を聞いてくれます。お腹が痛いと言つと、必ずお腹をみてくれます」彼の笑顔を見たのはこのときが初めてでした。